

SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」は、世界各地での気候変動やその影響を軽減するための目標です。

現在、世界中で、さまざまな自然災害が増えています。その原因のひとつが「地球温暖化」です。地球温暖化による長期的な気温の上昇に伴い、近年では降水量が世界的に増加し、洪水などの水害の被害が大きくなっています。

日本でも、河川や下水道の能力を超える豪雨が増えています。近畿地方では平成25年9月の台風18号で由良川や桂川が氾濫し、福知山市や京都市嵐山地区などで大規模な浸水被害が発生しました。大阪市でも、平成25年8月に発生した集中豪雨により梅田地区で内水氾濫が起きました。また、平成23年3月の東日本大震災ではマグニチュード9.0の地震による大きな津波が発生し、甚大な被害をもたらしています。

避難の情報が出たら!どうする?

避難が遅れると生命に危険を及ぼす可能性があります。できるだけ早めの避難を心がけましょう。

警戒レベル	避難行動等
警戒レベル5	【災害発生】既に災害が発生している状況 命を守るための最善の行動をとる
警戒レベル4	【危険な場所から全員避難!!】速やかに避難*する。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難する。
警戒レベル3	【危険な場所から高齢者等避難!! その他の人避難準備】避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難する。その他の人は、避難の準備を整える。
警戒レベル2	【避難行動の確認】避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。
警戒レベル1	【心構えを高める】災害への心構えを高める。

*避難先は、公的な避難場所に限りません。近くの家族や親戚、知人宅への避難について日頃から相談しておいてください。

避難行動で気をつけること

安全に避難する

動きやすく安全な格好で避難

- ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護し、すべりにくい靴を履きましょう。裸足や長靴は危険です。
- 荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。



浸水している状況では近くの高い建物に避難

- 既に浸水しているなかの避難は非常に危険です。
- 真っ暗闇ですでに浸水している場合など、避難所へ行くのが困難な場合は、近くの3階以上の建物に一時避難しましょう。

深さに注意

- 浸水時は50cm、津波は30cm以上の深さになると歩いて避難できなくなります。
- くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。

足元に注意

- 水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。
- 長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩きましょう。

協力し合って避難する

一人で行動しない

- 隣近所に声をかけて集団で避難しましょう。
- はぐれないように体の一部をロープで結ぶとよいでしょう。

子どもや高齢者などへの配慮

- 高齢者や病人、子どもなど、避難に援助が必要な方の安全確保など、避難に協力しましょう。



避難に車はできるだけ使わない

- 車で避難することはできるだけ控えましょう。
- 避難する車で狭い道路が渋滞して、緊急車両が通れなかったり、津波にのみこまれて命を落とす危険があります。
- アンダーパスなどが浸水していると、立ち往生して脱出できなくなる可能性もあります。



地下や路面の低い場所での被災にご注意ください!

地下街・地下鉄・地下室

大雨時、道路にあふれた水が地下街や地下駅、地下室を襲うことがあります。

地下にいるときは、安全と思込まず、外で何が起きているのかを把握するようにしましょう。

階段を流れ落ちる水の勢いは強く、地上への避難は困難になりますので、地下への浸水が予想される時には早めに避難しましょう。

また、出入口に設置した止水板を越えて浸水してることがありますので、係員や従業員の指示に従って避難してください。



アンダーパス

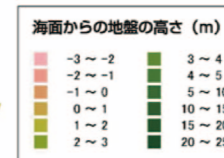
鉄道など、路面が低くなっている部分は、水がたまる恐れがあります。

大雨の時には十分な注意を心がけてください。

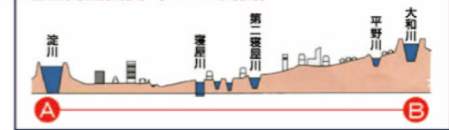


大阪市は水害に弱い地形

大阪市は、淀川・大和川・神崎川・寝屋川などの大きな河川と海に囲まれており、平坦な低地が広がっています。そのため水害に非常に弱く、大雨や津波が発生した場合、河川氾濫や内水氾濫・高潮・津波浸水が起こることが想定されています。



●地盤高断面図 (A~B断面)



大阪市ではどんな水害が起こるの?

大阪市では、大雨が降ったり、台風や低気圧が接近した場合、地震による津波が発生した場合の浸水が想定されています。想定されている水害は、河川氾濫・内水氾濫・高潮・津波浸水の4種類です。

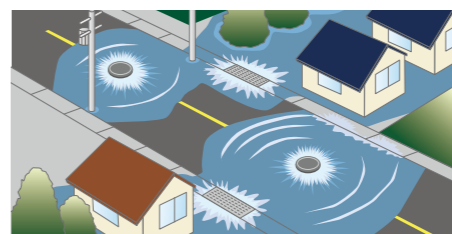
河川氾濫

長時間雨が激しく降ると、河川の増水により堤防が壊れたり、堤防から水が溢れ出して浸水します。



内水氾濫

水路や下水道の排水能力を超える大雨が降ったり、河川の水位上昇により十分に排水できなくなると、雨水が溢れ、住宅地や道路などが冠水します。

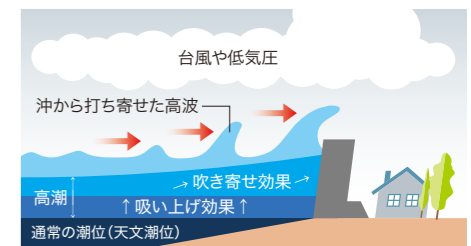


高潮

台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。高潮は、主に以下の2つのことが原因となって起こります。

吸い上げ効果: 台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。

吹き寄せ効果: 台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。



出典: 気象庁ホームページ
https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/knowledge/tide/takashio.html

基本品目 32点

非常持ち出し品チェックリスト(大人2人分の目安) ※は救急袋の中に入れておく。

- 非常持ち出し袋[1個]
- 缶入り乾パン(110g)[2個]
- 飲料水(500mlペットボトル)[6本]
- 懐中電灯[2個]
- ローソク[2本]
- ライター[2個]
- 携帯ラジオ[1台]
- 十徳ナイフ[1本]
- 軍手・手袋[2組]
- ロープ 5m~[1本]
- 救急袋[1枚]
- 毛抜き* [1本]
- 消毒液* [1本]
- 脱脂綿* [適量]
- ガーゼ(滅菌)* [2枚]
- ばんそうこう* [10枚~]
- 包帯* [2巻]
- 三角巾* [2枚]
- マスク* [2枚]
- 常備薬・持病薬など* [適量]
- レジャーシート[1枚]
- サバイバルブランケット[2枚]
- 簡易トイレ[2枚~]
- タオル[4枚~]
- ポリ袋[10枚]
- トイレトーパー[1ロール]
- ウェットティッシュ[2個]
- 現金(公衆電話用の小銭)[約50枚]
- ガムテープ(布製)[1個]
- 油性マジック(太)[1本]
- 筆記用具[1セット]
- 生理用品

※コロナ禍においては、体温計、マスク、アルコール消毒液、ハンドソープなども用意しておきましょう。

災害を防ぐことは難しくても、被害を少なくすることは可能です。日ごろから、自分の住む地域、働く地域の弱点を知り、災害時にどう行動するのかをあらかじめ決めておくなど、いざという時のためにしっかり備えましょう。

